

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500195		
法人名	株式会社 ジョウジマ		
事業所名	グループホーム伊万里		
所在地	佐賀県伊万里市二里町八谷搦781-1		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年9月24日	外部評価確定日	令和2年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>『一人一人が地域の中で土と水と空気と人とふれあい、その人らしく生きていただく』という理念の下、認知症を患われても、住み慣れた地域でのびのびと生活していただけるように、ご家族や地域の方々との連携を図り、行事参加などの交流を持って、開放的な環境づくりをおこなっています。利用者様には、様々な疾患や認知症の度合いの方がいらっしゃいますが、その方の個性を見極め、個々に応じたケアの実施に努め、お元気な時期から終末期まで、ご本人や家族の意向に沿えるよう対応しています。また、身体拘束をしないケアの実践に努め、委員会を立ち上げ、勉強会や活動をしています。ここ数年は、水害などもあり、災害対策を強化し、地域の方々(区長・民生委員・消防団等)と連携を密に取るようにしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>理念にある「その人らしく生きていただく」という想いが職員に浸透している事業所である。言葉だけではなく、画一的にならないケア、利用者それぞれに応じたケアの実践にも努めている。代表者が管理者に対し、自分で判断し、きりもり出来るよう裁量を与えている点も日々の運営がスムーズな要因であろう。また何か事があった時、どうやれば防げるか等、すぐに話し合う習慣や環境もある。研修や当外部評価はケアを振り返るきっかけと捉え、家族からの率直な意見にこそ期待している。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『一人一人が地域の中で土と水と空気と人とふれあいその人らしく生きていこう』の理念のもと、日々業務に携わっている。毎日、朝礼で理念と行動基準(クレド)を読み上げ実践に努めている。	『一人一人が地域の中で土と水と空気と人とふれあいその人らしく生きていこう』の理念のもと、日々業務に携わっている。毎日、朝礼で理念と行動基準(クレド)を読み上げ実践に努めている。	理念は常に立ち戻る原点として、当初から変更もなく、想いは引き継がれている。理念の下にある基本方針や行動基準の唱和、またそれらの掲示により意識付けを図っている。年度毎に掲げる各ユニットの目標は、一人ひとりと向き合っている現場の声で表現されている。理念が軸となり、職員の想いも相俟って実践へと繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隔年の地域の夏祭りに利用者と職員で出し物を発表したり、町民運動会や敬老会・市のボランティア祭りに参加し、地域の方との交流を取っている。(今年は、新型コロナウイルスの影響で、行事が中止となっている。)	隔年の地域の夏祭りに利用者と職員で出し物を発表したり、町民運動会や敬老会・市のボランティア祭りに参加し、地域の方との交流を取っている。(今年は、新型コロナウイルスの影響で、行事が中止となっている。)	自治会に加入し、地域との交流は積極的に行っている。但し、今年はコロナ禍の影響で祭り等のイベントは全て中止となり、例年のような交流は不可能となった。しかし、専門知識を活かして相談等に応じる用意は日頃からあり、近隣住民による見守りや連絡等を頼める関係も良好である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方にも認知症の理解を呼びかけたり、実習施設として、地域の学生を対象として実習生を受け入れる体制はとっている。	運営推進会議で地域の方にも認知症の理解を呼びかけたり、実習施設として、地域の学生を対象として実習生を受け入れる体制はとっている。	/	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進会議を実施し、利用者状況や事業所の取り組みの報告をおこない、意見をいただいている。その中で出た意見を生かし、災害対策についての話し合いを地域の方々とおこなった。	2ヶ月に一回、運営推進会議を実施し、利用者状況や事業所の取り組みの報告をおこない、意見をいただいている。その中で出た意見を生かし、災害対策についての話し合いを地域の方々とおこなった。	約90分の会議である。地域役職の方や行政担当者に加え、利用者や家族も参加している。行政側は代理でも必ず出席者を出している。事業所では、この会議を外部の人の目が入る貴重な機会と捉え、双方向な意見交換の場となるよう努めている。最近では災害時の対応に苦心し、メンバーからの意見をもらうべく臨時的な会議も開いている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市主催のコミュニティケア会議・ケアマネ連絡協議会等に参加し、行政や他事業所と意見・情報交換を行っている。	運営推進会議や市主催のコミュニティケア会議・ケアマネ連絡協議会等に参加し、行政や他事業所と意見・情報交換を行っている。	日頃から顔なじみであり、異動で担当が変わる際の連絡もある。問い合わせ等には電話を掛けたり、直接出向いたり、またメールも活用しながら実直に対応してもらえる関係を築いている。例えば、地区にある防災放送が聞こえ難い、緊急時には不安である旨を相談すると、個別に電話とファックスによる連絡が入るよう改められた。これは他施設にも展開され、行政側との協働関係を表すものである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けたマニュアルがあり、研修会をおこない、知識を深めている。身体拘束防止委員会では、3ヶ月毎に検討をおこない、半年に1回2事業所合同での検討会議を開催し意見を出し合っている。3ヶ月1回のユニット会議でも解除の方向へできないか話し合いを行い、拘束をしないケアができるよう取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けたマニュアルがあり、3か月に1回の身体拘束防止委員会の話し合いや社内研修・社外研修に参加し、身体拘束をしないケアの理解や取り組みを行っている。現在、新規の利用者様で転倒・骨折の恐れが高い方がおり、ベッド柵を使用している方がいるが、ホームの生活に慣れてこられたら、直ちに解除する予定である。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容とその弊害も理解しており、安全面や危険防止を理由に正当化する事もない。自己評価に記された具体的な取り組みからは、止むを得ず実施する場合であっても解除に向けた工夫や方法が常に話し合われているのが窺える。また玄関に施錠はなく、利用者の安全は職員が目配り等で支援され、行動を抑えることはない。職員は毎月自己チェックを行い、仮に不適切なケアがみられた場合は全体の事として捉え問題提起するとしている。指導ではなくアドバイスの言い方も心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、研修会では、グループワークや年に2回虐待の芽チェックリストを実施し、各委員が集計した結果を職員へ回覧し、再度認識し、虐待に関する理解と防止に努めている。	マニュアルを作成し、事業所内の研修やグループワーク・アンケートをおこなったり、外部研修に参加し、虐待に関する理解と防止に向けた体制作りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方はいないが、過去に対象者がおり、成年後見制度に関する研修会を行い、パンフレットなど資料を読むなど、理解を深めている。	現在、成年後見人制度を利用されている方はいないが、過去に対象者がおり、成年後見制度に関する研修会を行ったことがある。また、パンフレットなど資料を読むなど、理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定などに関しては、入居時に利用者や家族に説明し、不明な点がないか確認している。心配な点や疑問はその都度説明している	契約の締結や解約、改定などに関しては、入居時に利用者や家族に説明し、不明な点がないか確認している。心配な点や疑問はその都度説明している	/	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ロビーに意見箱を設置し、随時、意見や要望・苦情を受け付けられるようにしているが、書いてもらうまでには浸透していない為、面会時などに直接、意見をお聞きし、上司に報告したり、会議で意見を挙げ、運営等に反映させている。	玄関ロビーに意見箱を設置し、随時、意見や要望・苦情を受け付けている。また、面会時などに直接、意見を伺い、上司に報告したり、会議で意見を挙げ、運営等に反映させている。	現在のコロナ禍では面会も不自由なものとなっているが、通常であれば家族の来所は多い。遠方に住む家族には定期的に電話連絡も行っている。現状では面会時間も限られているが、些細な事でも話してもらえるよう努めている。今回の家族アンケートでは「話を聞いてくれる」「サービスには満足」という答えが殆どだが、事業所には率直な意見であってもきちんと対応する姿勢があり、前向きに活かす体制もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や研修、ユニット会議や日々の業務の中で職員の意見を聞く機会がある。その意見を経営陣や管理者クラスの会議で検討するなどしている。	毎月のスタッフ会議や研修、ユニット会議や日々の業務の中で職員の意見を聞く機会がある。その意見を経営陣や管理者クラスの会議で検討するなどしている。	毎月の職員会議には休みの人も出席し、2ユニット合同で開いている。約2時間を要し、ヒヤリハットや行事、各委員会からの報告等々が主な内容である。当日の夜勤者も入れ替わりで参加し、情報は全員に共有されている。限られた時間をスムーズに進めるため内容の事前周知も行っており、各自が意見を考えておく事にも役立っている。管理者は職場環境にも配慮が必要で、日頃から職員への声掛け等でコミュニケーションを図り、定時での帰宅や休暇希望、また上席へ現場の声を届ける事にも対処している。職員の体のケアや介護器具など、先を見据えた検討も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格等の有無以外に、勤務態度や出勤状況などを見て、評価をおこなっている。また、高年齢の職員には、体調や能力にあった業務を整備するなど安全な職場環境づくりに努めている。	資格等の有無以外に、勤務態度や出勤状況などを見て、評価をおこなっている。また、高年齢の職員には、体調や能力にあった業務を整備するなど安全な職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修はもちろん、職員個々に合わせた社外研修に参加をしている。また、働きながら、資格取得できる研修への参加が出来るよう、勤務調整をし、職員教育の取り組みをしている。	社内研修はもちろん、職員個々に合わせた社外研修に参加をしている。また、働きながら、資格取得できる研修への参加が出来るよう、勤務調整をし、職員教育の取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修に参加し、同業者との交流、ネットワーク作りをおこない、グループワークや事例発表を行うことで、良いものを取り入れ、参考にしている。	グループホーム協会主催の研修に参加し、同業者との交流、ネットワーク作りをおこない、グループワークや事例発表を行うことで、良いものを取り入れ、参考にしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の段階で、本人の状況や要望・困っていることは把握しており、利用開始された時も不安を与えないよう話題を提供したり、必要な援助が出来るような関係づくりに努めている。	入居希望の段階で、本人の状況や要望・困っていることは把握しており、利用開始された時も不安を与えないよう話題を提供したり、必要な援助が出来るような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の段階で、ご家族の状況や要望・困っていることは把握しており、利用開始された時も状況を報告したり、信頼関係づくりに努めている。	入居希望の段階で、ご家族の状況や要望・困っていることは把握しており、利用開始された時も状況を報告したり、信頼関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居1週間は体験入居とし、他のサービスの利用も考慮しながら、本人や家族の意向を聞き、本契約を取っている。	入居1週間は体験入居とし、他のサービスの利用も考慮しながら、本人や家族の意向を聞き、本契約を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝は自室や廊下の掃除機かけ、モップかけ、食事の下ごしらえ(玉ねぎ、ジャガイモ、人参の皮むき、もやしの根とり等)食器拭き、洗濯物干しや取り込み、洗濯たたみなどできる範囲で自分の仕事として行っておられ、暮らしを共にする者同士の関係が出来ている。	食事の準備や買い物、洗濯物たたみや掃除など利用者の力を発揮できる環境を作り、職員や他の利用者との共同作業をおこない、特別扱いせず、暮らしを共にする関係が出来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況に変化があれば、すぐに連絡し、情報を共有している。ホームの行事にも参加やお手伝いをして頂き、職員と共に支え合う関係作りに努めている。	利用者の状況に変化があれば、すぐに連絡し、情報を共有している。ホームの行事にも参加やお手伝いをして頂き、職員と共に支え合う関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、自宅で使用していた家具を持ってきてもらうなどしている。家族以外の方の面会や外出も随時受け付けているが、現在は面会制限をしており、電話対応をしている。これまでの関係を途切れないよう支援している。	通常、家族や兄弟、友人の面会や外出など随時受け付けている。日中、いつでも面会できるが、現在は、面会制限をしている為、電話での対応をおこない、関係が途切れないよう援助している。	入居にあたり、これまでの人間関係の把握を行っている。本人や家族、担当のケアマネージャーはもとより、利用していたサービス事業所や、場合によっては医療関係者からも話を聞き情報を集めている。それらが基になり具体的な支援へと繋げている。例えば、電話の使用はいつでも可能であり、手紙の代行もある。盆正月の帰宅(宿泊もあり)や墓参りなどコロナ禍でなければ出来ていた事は多い。この状況が利用者に過度のストレスを与えないよう、また関係が途切れないよう心を砕いている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同スペース(リビング)での会話が弾むようにテーブルやソファを配置している。また、難聴の方もあり、会話の橋渡しをおこなっている。どうしても、暴言、罵声、大声を上げる方が一人おられ、対応できない場合は居室で過ごしてもらうこともある。	利用者同士の関係性を理解し、テーブルの配置や席順を工夫している。女性利用者は会話も多く、一緒に活動などが行えるが、男性は1人の時間が多くなりがちなので、職員が出来るだけ関わりを持つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで契約更新が出来ない場合、その後の生活のマネジメント等の外部依頼をし、支援している。相談なども受け付けている。	長期入院などで契約更新が出来ない場合、その後の生活のマネジメント等の外部依頼をし、支援している。相談なども受け付けている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の情報や本人・家族の思いや希望を聞き、意向に沿えるよう努めている。認知症状がひどく、自分では希望を言えない方は生活歴などを考慮し、本人の立場に立って考えている。	入居時の情報や本人・家族の思いや希望を聞き、意向に沿えるよう努めている。認知症状がひどく、自分では希望を言えない方は生活歴などを考慮し、本人の立場に立って考えている。	利用者が想いを伝えやすくするため、日頃の関わり方にもアイデアがある。例えば、飲み物は数種類のメニューから自分で選んでもらい、懐かしい図柄を使った塗り絵では、それをきっかけに思い出が語られる事もある。家族から縫物が得意だったと教えてもらったり、入浴中のリラックスした中で想いが聞けたり、また隣で話し相手をしている時にふっと話してくれる事もある。スキンシップも交えながら寄り添っているケアは、介護のためではなく生活を支えるためという意識が窺える。聞き取った事は口頭やノートに記し共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人の生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の経過等を担当ケアマネや家族・本人に聞き、情報を職員全員が把握できるようにしている。	利用者本人の生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の経過等を担当ケアマネや家族・本人に聞き、情報を職員全員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人1人の過ごし方を記録し、それを元に身体状況や残存機能、排泄リズム等の把握に努めている。また、こんな事ができたと、新しい発見などがある場合は記録に残し、申し送りノート活用するなど、スタッフに浸透するようにしている。	利用者1人1人の過ごし方を記録し、職員間で申し送ったり、ノートを活用することで、情報共有し、それを元に身体状況や残存機能、排泄リズム等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の身体や認知症状を観察し、家族の意見や主治医のコメント等を参考に介護計画を作成している。特に、認知症状が強く、自分の意思を言えない方は、行動や何気ない言葉をヒントに課題を立て、計画作成している。	本人の身体や認知症状を観察し、家族の意見や主治医のコメント等を参考に介護計画を作成している。特に、認知症状が強く、自分の意思を言えない方は、行動や何気ない言葉をヒントに課題を立て、計画作成している。	ケアプランについて家族アンケートでは回答者全員が「分かりやすく説明を受け、一緒に話し合っている」と答えている。プランには日々のケアの中で気付いた事、面会や電話での会話から汲み取った想いが組み込まれている。見直し設定期間は様々で、入居して間もない時期は毎月、その後、3か月毎、6か月毎と状況に合わせている。その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。個別記録簿により実施状況は把握され、毎月のモニタリングは担当職員によって確認されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個別記録や介護計画を毎日チェックし、1か月ごとに評価している。3か月おきのユニット会議にて意見を出し合っている。現状と計画が一致しているかその都度、見直しを行っている。	利用者の個別記録や介護計画を毎日チェックし、1か月ごとに評価している。3か月おきのユニット会議にて意見を出し合っている。現状と計画が一致しているかその都度、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や入退院時の対応(洗濯物や必要物品の準備など)を家族が出来ない場合、代行したり、既存のサービス以外の支援も柔軟に対応している。	通院介助や入退院時の対応(洗濯物や必要物品の準備など)を家族が出来ない場合、代行したり、既存のサービス以外の支援も柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア(お茶会・バイオリン演奏・コーラス・手芸など)の協力を得、趣味や娯楽を楽しんでいたが、現在は、中止している為、職員が対応している。	地域のボランティア(お茶会・バイオリン演奏・コーラス・手芸など)の協力を得、趣味や娯楽を楽しんでいたが、現在は、中止している為、職員が対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、入居前からのかかりつけ医を継続して利用できるように通院援助を行っている。特にかかりつけがない方は、事業所の協力病院を紹介し、適切な医療が受けられるようにしている。	利用者や家族の希望により、入居前からのかかりつけ医を継続して利用できるように通院援助を行っている。特にかかりつけがない方は、事業所の協力病院を紹介し、適切な医療が受けられるようにしている。	かかりつけ医は様々で、入居後に説明を受け納得して協力医への変更を希望した方、昔からの馴染みの医師の元へ通う方、元々、協力医の患者だった方がいる。診療科目によって病院を探す際も本人や家族に尋ね希望に沿っている。受診には職員が同行し、定期受診以外は家族への報告も当日中に行っている。家族アンケートでは殆どが「健康管理や安全面などに不安はない」と答えているが、「少しある」の回答にも応えていこうとしている。事業所と家族の信頼関係も大切にしなが、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を実施し、顔色や状態の確認を行っている。異変があれば、速やかに事業所内の看護師やかかりつけ病院の看護師に報告をし、早期対応に心がけている。	毎日バイタル測定を実施し、顔色や状態の確認を行っている。異変があれば、速やかに事業所内の看護師やかかりつけ病院の看護師に報告をし、早期対応に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、利用者情報(特に認知症状による問題点)を詳しく説明し、入院中も適切な対応をしてもらえるよう連携を取っている。また、回復具合を見て、出来るだけ元の生活に戻れるよう働きかけを行っている。	入院の際は、利用者情報(特に認知症状による問題点)を詳しく説明し、入院中も適切な対応をしてもらえるよう連携を取っている。また、回復具合を見て、出来るだけ元の生活に戻れるよう働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルの方針や指針・同意書を作成しており、医師からの指摘を受けた場合、本人や家族の意向を確認しながら終末期の話し合いを行っている。	ターミナルの方針や指針・同意書を作成しており、医師からの指摘を受けた場合、本人や家族の意向を確認しながら終末期の話し合いを行っている。	入居契約時に指針の説明を行っている。「最期に至る時間を当事業所で生きる」と記しているように、これまで多くの利用者に関わっている。その経験と日頃からの研修は、安心して納得した最期を迎えてもらうための基礎となっている。キーパーソンだけではなく家族で想いをまとめてもらう事をお願いし、医師による説明も行っている。容態が変化する度に揺れ動く家族の気持ちに寄り添いながら、話し合いは何度でも重ねる事としている。また家族向けに、症状の変化等を分かりやすく説いた冊子の用意も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生時の動きをマニュアル化し、心肺蘇生やAEDの取扱い、ハイムリック法・吸引器の取り扱いなどの救急対応に備えている。	急変時の対応や事故発生時の動きをマニュアル化し、心肺蘇生やAEDの取扱い、ハイムリック法・吸引器の取り扱いなどの救急対応に備えている。	/	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の避難・通報訓練をおこなっている。地域の消防団や民生委員・区長、ホーム近隣住民の方にも訓練に参加してもらい、連携に努めている。ここ数年、大雨時、道路が通行止めになるなど、水害の危険があり、利用者の安全を守るため、ボートやライフジャケットの購入、地域の方々と災害時の話し合いをおこなった。又避難レベル3が出た場合に実際に避難を行い、どのくらい時間がかかるかなどの訓練を行う予定である。	日ごろから、防災用品の準備や地域の方々と話し合いをし、緊急事態に備えるように心がけている。毎年2回(日中・夜間)の避難・通報訓練では、地域の消防団や民生委員・区長、ホーム近隣住民の方にも訓練に参加してもらい、連携に努めている。	訓練は実際の夜間(薄暗くなる頃)でも行い、利用者も一緒に避難を体験している。職員は通報装置や消火器の使い方も承知している。また一斉連絡網には区長の登録があり、消防団へは消防署から流れるシステムがある。連絡があれば直ちに各役員へ知らせ駆け付ける手筈になっている。自己評価にあるようにライフジャケット等の準備もあり、自然災害への備えとしている。非常食や水、寒さを凌げる物の備蓄もある。火災か自然災害かによって一次避難先は異なるが、家族にも避難場所を知らせておくことは必要と考えている。訓練で見えた課題等はその場で話し合われ、改善策は速やかに周知している。コロナ禍では訓練もままならない状況にあるが、災害別に避難経路の見える化や手順作りに取り組み、迅速な対応が出来るよう努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の個性や人格を尊重し、プライドを傷つけない対応や言葉遣いに気を付けている。また、年2回実施している虐待の芽チェックリスト調査の中にある様に本人が気づかないで使っている言葉があり、調査結果からまだ改善する場面を見つけ、反省、意識づけに繋げている。	個性や人格を尊重し、プライドを傷つけない対応や言葉かけに気を付けている。特に、スピーチロックになっていないか気を付け、接遇の勉強会を行うなどし、職員の意識付けをしている。	事業所では「虐待の芽チェック」を全員が行っている。日頃からプライバシー等には十分な配慮がみられるが、「気付かずに」を無くすためであり、早く対処する、即ち芽を摘む手段でもある。トイレや入浴の介助では最も配慮が求められる場面だが、ドアは閉めるなど基本的な事をきちんと行っている。また個人情報の取り扱いに対する職員の意識も高い。玄関の表札や居室の名札、ホーム便りへの掲載等々、全て入居時に承諾を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、要望や思いを言えるように働きかけている。おやつ時間は飲み物メニュー表(10種類)から、自分の飲みたいものをメモに書いてもらう等、簡単な事から行い、又、レクの時間以外でもできるように塗り絵、本読み、間違い探し等、準備しておき、自分で選択できるように工夫している。	日々の生活の中で、要望や思いを言えるように働きかけている。しかし、重度の認知症で希望が出せない方もおり、その場合、意思を表しやすいよう、職員が働きかけている。飲み物やおやつを選んでもらうなど簡単な事から自己決定できる場面を増やしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の基本的な流れはあるが、それにとらわれず、利用者の希望や特性に合わせた過ごし方ができるよう援助している。食事の時間もその方の要望で、ずらしたり、居室で休みたいと希望されれば、休んでもらう等柔軟に対応できている。	日常生活の基本的な流れはあるが、それにとらわれず、利用者の希望や特性に合わせた過ごし方ができるよう援助したい。食事の時間や場所も、その方の要望で、ずらしたり、自室で召し上がるなど柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪形や服装など好みを言える方は、その人らしい身だしなみができるよう支援している。大きな行事の際は女性の方は、お化粧品やマニキュア、ネックレス、ブーケ等の準備をし、喜んでもらっている。	髪形や服装など好みを言えない方は、その人らしい身だしなみができるように準備をしたり、介助をしている。女性の方は、お化粧品やマニキュアを施したり、男性の方は、嫌がられる時もあるが、髭剃りや髪を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の前に献立を伝え、必要な野菜はどんなもので皮むき等の手伝いを依頼したり、調理の途中で味見をしてもらっている。食べる前には今日の献立を発表するなど楽しんで食事が出来ている。利用者1人1人の得意分野を生かしながら、食事の準備から後片付けまで一緒に行っている。	野菜の皮むきや食器拭きなどを職員や利用者同士でおこない、利用者1人1人の得意分野を生かしながら、食事の準備を行っている。	献立を考える給食委員がおり、居酒屋の日、カレーの日、混ぜご飯の日など楽しみとなる日も組み込まれている。利用者の好き嫌いやアレルギーの有無の把握もしており、苦手な食材等には代替えも用意される。出来るだけ自分で口へ運んでほしいとの想いから介助は最小限に止めている。準備や片付けを手伝う利用者もあり、暮らしの中で目標を立て、出来るとシールを貼る褒美は他の場面でも励みとなっている。誕生日は当日に祝い、本人が希望する食事や手作りケーキも用意される。利用者と職員は一緒にテーブルを囲み、同じものを食べながら笑い声も聞かれ、和やかな食事風景である。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は同じですが、その方の状態により、8割にしたり、塩分を控えたり、ご飯の量を計って出している。水分も飲んでもらえない方には、お茶ゼリーにしたり工夫している。	利用者の身体状況に応じて、量や形状、水分量を調整している。介助が必要であれば援助し、食事が低下している方には、医師に相談し、栄養補助ドリンク等を処方してもらするなど、栄養バランスに注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこない、清潔保持と誤嚥性肺炎予防に努めている。ご自分でできない方は、入れ歯の手入れなど介助をし、口腔ケア用品は、消毒し、清潔保持に努めている。	毎食後、口腔ケアをおこない、清潔保持と誤嚥性肺炎予防に努めている。ご自分でできない方は、入れ歯の手入れなど介助をし、口腔ケア用品は、消毒し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個別の排泄パターンの把握をするため、記録を取り分析している。誘導や介助をおこない、失禁を減らし、必要以上にオムツを使わない自立した排泄を支援している。	利用者個別の排泄パターンの把握をするため、記録を取り分析している。誘導や介助をおこない、失禁を減らし、必要以上にオムツを使わない自立した排泄を支援している。	排泄記録からパターンを分析した結果は、失禁減やオムツ類の使用枚数減にも繋がっている。声掛けや誘導が功を奏した結果である。この支援により入居後にオムツ使用から改善した例もある。また記録簿にオムツの種類等を記入しておくことで次回購入品のヒントにもなっている。トイレ内は広く、車椅子でもゆとりがある。手すりや可動式ひじ掛けが設置され、自立を促す補助具として役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、有無の把握や排便間隔を分析し、水分や運動、食物繊維の多い食事や乳製品などを取り入れ、排便を促している。改善が見られない時は、医師に相談し、その方にあった便秘薬を調整し、排便のコントロールが出来ている。	排便の有無の把握や排便間隔を分析し、水分や運動、食物繊維の多い食事や乳製品などを取り入れ、排便を促している。改善が見られない時は、便秘薬で調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴を実施し、体調や利用者の希望に沿って入浴している。入浴をされない日は、清拭や更衣をおこない、清潔保持に努めている。	基本的に毎日入浴を実施し、体調や利用者の希望に沿って入浴している。入浴をされない日は、清拭や更衣をおこない、清潔保持に努めている。	入浴は毎日でも可能である。水素風呂という水素を発生させる器具を浸ける事によって、皮膚疾患等にも効果がみられている。浴室には暖房設備があり、冬場のヒートショック対策となっている。季節を感じてもらうために柚子湯や菖蒲湯も提供している。拒む方には職員のテクニックで対応し、入浴後は気持ちよかったとの声も聞かれる。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、見守りの支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ自由に自室で休息をとったり、利用者が安心できる環境で過ごしてもらっている。リビングにも3人掛けのソファを3台置き、個々自由にゆっくりと休息する時間をとれるよう支援している。	それぞれ自由に自室で休息をとったり、利用者が安心できる環境で過ごしてもらっている。リビングにもベッドを配置し、自由に休んでいただけのようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や容量などを処方一覧で確認し、把握に努めている。利用者個別の医療ノートを準備し、受診した際に受診内容や処方内容を記入し、薬の変更などは申し送りノートにも記載し、確実に職員間で情報を共有している。処方に変更になった際は、状態変化に注意している。	薬の内容や容量などを処方一覧で確認し、把握に努めている。利用者個別の医療ノートを準備し、受診した際に受診内容や処方内容を記入し、職員間で情報を共有している。処方に変更になった際は、状態変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の趣味や生活歴を把握し、現在の身体状況や認知症状を照らし合わせ、現在のレベルに合った楽しみ(ぬり絵・脳トレ・計算ドリル・手芸・カラオケなど)や役割(掃除や洗濯物たたみなど)を持ってもらい、【やってみよう】という利用者が出来るチャレンジを表に書いてもらい、出来たらシールを貼るようにし、自信につなげている。	以前の趣味や生活歴を把握し、現在の身体状況や認知症状を照らし合わせ、現在のレベルに合った楽しみ(ぬり絵・脳トレ・計算ドリル・手芸・カラオケなど)や役割(掃除や洗濯物たたみなど)を持ってもらい、自信につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月10日を外食の日と決めていたが、現在は自粛しており、実施できていない。状況により、外出の必要がある場合は、感染予防対策(マスク着用・短時間・3密にならないようにする など)を取りながら、実施しなければいけないと考えている。	利用者の体調を見ながら、外出やドライブ・イベントなどにお連れするようにしている。家族が外出や散歩にお連れすることもあり、職員と家族とで協力しあいながら援助している。現在は、コロナ渦にあり、基本的には外出ができないが、状況に応じ、感染予防対策を取りながら対応は考えている。	コロナ禍以前は月に一度の外食や、職員との買い物、ドライブ等も自由に出掛けていた。本人から希望があったり、テレビ等からの話題を振れば興味を示す利用者もあって外出を楽しんでいた。現在は自粛の日々ではあるが、状況をみながら検討も始めている。また事業所周辺への散歩は変わりなく行っており、五感の刺激にも繋がっている。車椅子に移乗できるなら外の空気にも触れてほしいとの想いから、全く外へ出ない利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力を見ながら、お金の所持をしてもらっている。現在は1名の方が所持されている。その他の方は職員が管理し、必要時にはご本人に買い物してもらい、管理している中からお出しするようにしている。	利用者の管理能力を見ながら、お金の所持をもらっていたが、現在は対象者がいない為、職員が管理し、必要時にお出しするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は共有スペース(リビング)にあり、自由に使用できるように配置している。電話のやり取りや手紙を発送したり、代行をすることで、家族や知人とのつながりを支援している。	電話は共有スペース(リビング)にあり、自由に使用できるように配置している。電話のやり取りや手紙を発送したり、代行をすることで、家族や知人とのつながりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや台所など共有スペースには、季節の飾りつけや自然光が入り、生活感のある安心できる環境づくりを心がけている。室温調節や明るさの調節にも気を配り、快適に過ごしてもらおう心がけている。	リビングや台所など共有スペースには、季節の飾りつけや自然光が入り、生活感のある安心できる環境づくりを心がけている。室温調節や明るさの調節にも気を配り、快適に過ごしてもらおう心がけている。	玄関を入ると安定感のあるベンチが置かれ、利用者には安全に靴を脱げる(履ける)場所である。段差箇所もあるが、自宅であれば当然の造りで、バリアフリーだけが工夫ではないと気付かされる。利用者の動線上に行動を妨げる物はなく、安心と安全を提供しながら生活を支援している。掃除機やモップで掃除を手伝う利用者もあり、暮らしの中で自然な一コマである。浴室やトイレもきれいに掃除され、手を触れる箇所の消毒や換気もこまめに行っている。強い日差しにはフィルムを貼り調節している。騒音は無く、数か所設置の消臭・防菌器具もあって気になる臭いは全くない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース(リビング)では、テーブルの配置などに気を付け、また、ソファを置き、談話スペースを設けたり、ゆっくりしたい時は離れて座るなど自由にできる居場所の工夫をしている。	共有スペースでは、テーブルの配置などに気を付け、また、ロビーには、ソファを置き、談話スペースを設け、居場所の工夫をしている。	/	/
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際し、出来るだけ使い慣れた物を持参してもらい、ホームでの生活に1日でも早く慣れてもらうようにしている。しかし、心身状況や認知症状により、今までの物が合わない場合(例えば、ベッド)は適したものを準備し、快適に過ごしてもらおうようにしている。	入居に際し、出来るだけ使い慣れた物を持参してもらい、ホームでの生活に1日でも早く慣れてもらうようにしている。しかし、心身状況や認知症状により、今までの物が合わない場合(例えば、ベッド)は適したものを準備し、快適に過ごしてもらおうようにしている。	居室には畳とフローリングの2タイプがあり、それぞれに良さがある。持ち込む品物では火気等の危険物以外としているが、一名の喫煙者には場所を決め見守りの中で吸ってもらうことで制限はしていない。仏壇を持つ利用者には毎朝、水と仏飯が用意されている。利用者毎の想いに寄り添い、居心地良く過ごしてもらえる配慮が窺える。天気の良い日には寝具類を干す手間も惜しまない。手作りした作品なども飾られ、明るい雰囲気になっている。また家族が希望すれば居室での宿泊も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(かえで棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(あかり棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	自室やトイレなど分かりやすいよう に明記し、段差は手すりを配置、通 路は障害物になる物を置かないよう に配慮し、安全に自立した生活がで きるように対応している。	自室やトイレなど分かりやすいよう に明記し、段差は手すりを配置、通 路は障害物になる物を置かないよう に配慮し、安全に自立した生活がで きるように対応している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)		○	1. ほぼ全ての職員が
		○		2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない